

# 令和4年度 学校評価一覧シート

愛知県立半田工科高等学校

項目担当	本年度の重点目標	・生徒個々の能力の向上を図る。 ・開かれた学校づくりを推進し、地域への情報発信をより高め生徒募集に繋げる。 ・自己表現できる人間の育成に努め、思いやりの心を醸成させる。	
	重点目標	具体的方策	中間評価
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の企画と見直し、行事の円滑化を図る。</li> <li>・PTAとの連携を深める。</li> <li>・防災教育の徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の反省を踏まえた企画・運営をする。</li> <li>・PTA活動の活発化に努める。また、PTA活動等の案内について、メール配信を積極的に活用する。</li> <li>・高校生防災セミナーに参加し、防災意識の高揚を図る。また、防災意識の向上につながる防災訓練の実施をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式を始め、各式典は、新型コロナウイルス感染対策に留意し、他分掌と連携を図り無事に終えられた。</li> <li>・PTA活動や学校行事の案内について、積極的にメール配信を実施した。</li> <li>・昨年度学んだ内容を活かし、実践的な避難訓練の実施や文化祭での防災展示など計画している。</li> </ul>
教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の学力を向上させる。</li> <li>・広報活動の充実</li> <li>・学科選択・科目選択に関する申し合わせ事項を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の工夫改善を図り、生徒の学習意欲を高める。</li> <li>・授業を大切にする。 (授業規律、成績不振者指導等)</li> <li>・中学校の進路説明会や、地域交流を通じ本校の様子について伝える。</li> <li>・学習指導委員会において、生徒の適性や進路に応じた学科・科目が選択できるよう見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の成績不振者に対し、追試補習の事前指導を実施した。</li> <li>・基礎学力を高めるため、4月に1・2年生に対し基礎力診断テストを実施した。</li> <li>・7校の中学校で進路説明会を実施した。また、運営委員による中学校の訪問を実施した。</li> </ul>
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、身だしなみを整える等、生徒自ら主体的に行動できるようにする。</li> <li>・安全・安心な学校生活の実現。</li> <li>・遅刻、欠席しない基本的な生活習慣の確立。</li> <li>・いじめの未然防止、早期発見、適切な対処。</li> <li>・薬物乱用防止に向けての啓発活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校門指導で挨拶の励行も行い、身だしなみ指導も年間8回実施するが、生徒自ら行動に移せるように働きかけていく。</li> <li>・講話の実施や、全体、HR単位、部活動単位または個人に対し全職員で協力して指導する。命の大切さを伝えるとともに、人権に関する指導の充実と、交通事故の防止に努める。</li> <li>・生活アンケートを利用した情報収集と、家庭や地域社会との連携を図り、いじめの未然防止・早期発見に努める。また情報を職員間で共有し、いじめ防止対策委員が中心となり全職員で組織的に対応しいじめの根絶をめざす。</li> <li>・薬物についての危険性を周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が自ら挨拶をすることができるようになってきている。</li> <li>・生活アンケートの結果から、日常生活では多くの生徒が充実した生活を送っている。また、個々のアンケートをもとに個別面談でトラブルなどを未然に防止することができた。</li> <li>・6月16日LTにおいて交通安全講話を実施し、事故防止に努めることができた。</li> <li>・6月23日LTにおいて薬物乱用防止講話を実施し、危険性を周知することができた。</li> </ul>
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識の高揚を図る。</li> <li>・自分に合った進路選択をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の目標を持たせ、自己実現に必要な能力を伸長できるように援助する。</li> <li>・勤労観・職業観を育成するため、進路への知見を広めさせる情報提供をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査の予備調査を3度行うなど、3年学年会との連携を図ることができた。</li> <li>・卒業生による職業指導講話、外部講師による進学指導講話に加えて、校内での企業説明会を2度実施した。</li> </ul>

	重点目標	具体的方策	中間評価
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康への意識を高め、感染症予防にも努め、心身ともに健康的な学校生活を送れるようにする。</li> <li>学校生活における不安や悩みの早期発見、解決に努める。</li> <li>日常の清掃に積極的に取り組み、安心安全な学校環境を保つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断、保健講話、毎日の健康観察を通じて健康への意識を高める。</li> <li>こまめな換気、消毒薬・手洗石鹸補充をし、感染症予防に努める。</li> <li>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、担任、相談係と連携し、教育相談体制の充実をはかり、情報を共有し問題解決に取り組む。</li> <li>清掃を毎日全員で実施し、ごみの分別、環境美化、校内整備に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種検診を1学期中に終了することができた。</li> <li>保健講話は、藤田医科大学病院の薬剤部長による「がん予防と健康」を行った。</li> <li>教室における換気や消毒薬の補充に努め、感染症予防を行った。</li> <li>スクールカウンセラーはのべ8名の相談を行い、担任、相談係との情報共有を行うことができた。</li> <li>生徒厚生委員の協力により、ゴミの分別作業がスムーズに行うことができた。</li> </ul>
図書情報部	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が興味を持てる本の購入や企画を行い、利用し易い図書館を目指す。</li> <li>校内のICTの強化、DXを推進させる。</li> <li>ホームページの内容を充実させ、本校の魅力を地域に発信する。</li> <li>「工科 Times」「半工 Girl's ライフ」の発行を通じて、本校の魅力をアピールする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「図書館だより」を通じて本や企画の紹介を行い、図書館利用を呼びかける。</li> <li>生徒1台タブレットPCや各種ICT機器を、各教室に設置させる。</li> <li>開設された新学科のWebページの状況を見ながら、改善点や要望のある内容を充実させる。</li> <li>中学校の教員や生徒および保護者、地域、企業関係者に積極的にPRする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「図書館だより」は4月から7月まで毎月1回発行しており、例年通りの貸出利用者が来ている。また、自習のための利用者が増えている。</li> <li>タブレットPCの設置は完了した。現在、家庭に持ち帰って利用する際の準備を行っている。</li> <li>一部要望は出ているので、改善を行っている。</li> <li>「工科 Times」の発行はできたが、「半工 Girl's ライフ」の発行が現在できていないため、今後作成していく。</li> </ul>
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒主体となる学校行事運営を目標とする。</li> <li>ICTを活用し生徒を主体とした学校行事運営を目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自主的に活動し、全校生徒が協力して学校行事に取り組めるように、生徒会執行部が中心になって企画や運営を行う。また、半田工科高等学校に適した学校行事を検討する。</li> <li>生徒が本校で学んだICT技術を活用してもらい、生徒主体の行事運営を行う。また、ほとんどのデータをデジタルデータ化し運営していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種行事において、生徒会執行部の生徒が主体的に取り組むことができた。特に、体育祭において音楽部、写真部、その他の部活動の生徒や顧問の先生に協力をいただいた。</li> <li>タブレットやPCを活用し工科高校で学んだデジタル技術を生かすことができた。文化祭においても、引き続き生徒中心かつ主体的にデジタル技術を生かした運営を促したい。</li> </ul>
工務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得に取り組むことにより、わからないことへの探究心を身に付け、チャレンジ精神を育て、生徒個々の能力向上を図る。</li> <li>積極的に地域イベントに参加して、開かれた学校づくりを推進し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、生徒募集に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格の情報を正確に素早く提供する。提供する方法としてホームページを活用する。</li> <li>地域連携授業や地域イベントに積極的に参加し、本校の魅力を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に資格検定年間行事予定をWebページに掲載、その後、検定試験の案内等をWebページを活用して発信した。</li> <li>8月4日に中学生体験入学を実施し、約400人の中学生、保護者に対し本校の魅力を発信した。8月20日には、半田市が主催する子ども科学体験教室にブースを出し、ものづくりの楽しさを発信した。</li> </ul>

	重点目標	具体的方策	中間評価
ロボット工学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の生活指導や実習・課題研究等の授業を大切に、自ら考え行動できる人物を育む。</li> <li>ロボット工学に必要となる、知識や技能を身に付ける。また、『安全』についても考える機会を与え、危険予知能力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習・課題研究や座学の授業、定期考査を大切に。そのため授業の開始時間の厳守や、あいさつ、正しい言葉遣いをはじめとした授業規律を確立し、自ら学習できる環境を整える。</li> <li>協働ロボットの制御や、シーケンス制御などをはじめとした、『設備設計・製作』の考え方を基本とし、日々の授業で力を身に付けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習や課題研究の集合・点呼を通じて、授業規律を身に付けることができた。今後も継続していきたい。</li> <li>ロボット制御実習では、産業用ロボットとその周辺機器の安全や基礎について深く学ぶ機会を設けることができた。</li> </ul>
電子機械科・機械科	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の理解に努め、実習や製図などのものづくりの経験を通して、学習に対する姿勢を育む。また、「安全への意識」、「5S」や「報連相」など工業人としての姿勢や考え方を伝え、理解し実践できるように育成する。</li> <li>新しい学科への学習内容の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科科目に対ししっかり理解させる。特に実習製図など作業を伴う授業では、体験を通して意欲を高める。</li> <li>資格・検定に対して計画的に取り組ませる。</li> <li>外部企業との連携を深めることでキャリア教育の推進を図る。</li> <li>地域の活動に参加し、相互の関連を理解し連携を深める。</li> <li>新しい実習の教育効果があがるように、設備、指導書、実習展開等を検討し、改善する。</li> <li>新しい学習指導要領に沿った評価の観点を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生は、特に製図に関し力を伸ばす指導ができた。また、観点別評価について、担当者間で検討が進んでいる。</li> <li>2年生は専門性の高い科目に苦勞しているが、基礎力をつける指導を心がけている。実習は経験や安全について自信を深めることができた。</li> <li>地域の企業に就業体験する機会を生かして、進路についての意識を高めることができた。</li> <li>2年生はガス溶接技能検定、3年生は製図検定を受検するが、これらの合格率の向上の方策や、他の資格検定についても、新しい機械科として取り組めるものを検討したい。</li> </ul>
電気科	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気への興味関心を高めながら、生徒個々の基礎学力とコミュニケーション能力などの向上を図る。</li> <li>生徒が自己表現できる場を提供しながら、開かれた学校づくりを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃の授業や資格取得のための補習を通して、基礎学力および電気に関する知識と能力を高める指導をする。</li> <li>レポート指導や声かけなどによりコミュニケーション能力の向上を図る。</li> <li>学校行事に積極的に参加させ、地域貢献や他人と協力できる場を提供し、地域への情報発信につなげる。</li> <li>ボランティア活動内容や各種競技大会の結果など、生徒の活躍を学校ホームページを通じて情報発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得や検定試験のための学習を通して、多くの生徒が電気に関する知識と能力を高めることができた。</li> <li>ノートやレポート等、未提出の生徒に対して粘り強く指導を行った結果、提出物をしっかり出す習慣が身に付いてきている。</li> <li>中学生体験入学に多くの生徒が参加することにより、地域へ本校電気科の情報を発信した。また生徒がより自己表現できるようになった。</li> </ul>

	重点目標	具体的方策	中間評価
建築科・建築デザイン科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「衣・食・住」という私たちの生活の根幹をなす建築学と、デザインを学ぶことの楽しさと大切さを伝える。</li> <li>・専門教科の基礎的能力を向上させ、社会とのつながりを伝え、応用力を養う。建築を学んだことを活かして社会に貢献していくということを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築は人の命と財産を守ることに直接関わっていることと、優れたデザインは私たちの生活を豊かにしていることが伝わるよう、新聞記事や映像を機会あるごとに紹介する。</li> <li>・中学生や保護者には、体験入学やホームページを通して、建築デザイン科で学ぶことの楽しさと大切さが伝わるように発信する。</li> <li>・製図は二級建築士の試験が手描き製図のため、手描きの指導とし、CADは実習等で指導する。</li> <li>・1、2年生と3年生の法規選択者は卒業後すぐに二級建築士の受験資格を得られることから、人手不足の建築業界で多くの生徒が卒業後に試験に挑戦するような声掛けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習や工業技術基礎の内容の見直しを昨年に引き続き行っている。1年生にはNHKで放映された「建築と美術」という番組を見せ、時代とともに建築の美しさの基準が変わっていくことを伝えた。</li> <li>・最近人気のDIYは建築デザイン科で学ぶ内容と同じであることが多く、生徒たちが将来自分たちの手で周りをよりよくしていくことにもつながっていることを保護者対象の学科選択説明会で紹介した。</li> <li>・2、3年生に、二級建築士の実技試験で使用する「平行定規」で製図を描く経験をさせ、卒業後、試験に挑戦しやすいよう意識付けをした。</li> <li>・木材加工での怪我を防止するため、革製のエプロンを素早く用意し、これまで以上に安全を意識させ、生徒と保護者に安心して授業が受けられるよう対応している。</li> </ul>
土木科・都市工学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本を重視し、建設業において必要となる知識・教養の習得を目指す。</li> <li>・細かな生活指導を大切に、基本的な生活習慣を育む。</li> <li>・地域社会との繋がりを大切に、学外への情報発信もできるよう努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容を基本とし、就業を意識した授業展開を行う。特に国家資格の重要性を伝え、学習意欲を向上させる。</li> <li>・日頃より、礼儀、けじめについて、しっかりと指導をする。特に、正しい言葉使いを伝え、社会人としての心構えを身に付けさせる。</li> <li>・県内企業との繋がりを大切に、現場見学会、外部講師による出前授業等を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通じ、実際の仕事に繋がる学習内容を教授できた。また、建設業において必要となる資格も紹介しており、学習意欲の向上を図ることができた。</li> <li>・多くの生徒において、正しい言葉遣いができていると感じている。細かな指導を継続して行っていきたい。</li> <li>・4月に現場見学会を実施することができた。また、9月には外部講師を招聘し、出前授業を予定している。</li> </ul>
1年学年会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態を把握しながら規律を身に付けさせる。</li> <li>・資格取得の励行。</li> <li>・学科選択の適正化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの活動における声掛けや、コミュニケーションを取りやすい関係を作りながら指導する。</li> <li>・授業や補習を通して自学自習のできる様に指導する。</li> <li>・実習・座学を通して工業教育へ興味関心を高め、個々の能力にあった学科選択を指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣については、ほとんどの生徒が身に付けつつあるが、まだまだあいさつができない生徒がいるため、引き続き指導していく。</li> <li>・1学期は目標を持って取り組む姿勢を身に付けさせるため、計算技術検定試験3級の資格取得に向けて支援することができた。</li> <li>・学科選択を意識した授業説明や保護者、生徒向けの学科選択説明会を行い、学科選択への意識を向上させることができた。</li> </ul>
2年学年会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に対する意識の高揚を図り自分の将来について真剣に考えさせる。</li> <li>・普段の生活で継続的に、学校行事で重点的にクラスの連携を深め、コミュニケーション能力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と連携し、希望調査の実施とそれに合わせたアドバイスを行うことで、目標設定の方法を指導し来年に向けた意識付けを行う。</li> <li>・クラスメイト同士が積極的にかかわり、普段の生活や修学旅行などの学校行事に協力して取り組むことで、他人との意思疎通方法を学習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と協力会社との連携を取り、生徒に適した講話の計画を行っている。</li> <li>・各クラスとも新しい友人が増えた生徒が多く、学科ごとになじんできている。今後の学校行事も親睦を深め、コミュニケーション能力の向上と良い雰囲気で行えるよう準備を進めていきたい。</li> </ul>

	重点目標	具体的方策	中間評価
3年学年会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の能力や適性を十分に把握し、生徒に適した進路選択ができるように指導する。</li> <li>・社会人としてのモラルやマナーをしっかりと身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR やLT 活動，個人面談を通して，生徒の進路希望について十分に理解する。また，進路指導部や担任間でも連携を図り，職業講和の充実や校内企業説明会への参加を積極的に促す。</li> <li>・学校生活や修学旅行などを通して，社会人として必要なモラルやマナーを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査のシミュレーションを3回行い，それをもとに個人面談を行うことができた。また，5月の進路講話の実施や企業説明会への参加を促すことによって，進路選択に役立てることができた。</li> <li>・社会人としてのモラルやマナーを学校生活や修学旅行などを通して伝えることができた。しかし，まだまだ継続した指導が必要であるため，引き続き実施していく。</li> </ul>
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立について</li> <li>・学校行事，部活動の充実・発展について</li> <li>・資格取得の推進について</li> <li>・学校いじめ防止基本方針に基づく取組について</li> <li>・在校時間等の状況記録の結果を活用し，業務の適正化を図るとともに教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努めることについて</li> </ul>	